



**第5回**  
**パッケージ型インフラ海外展開推進実務者会議**

**2010年4月13日(火)**

**“海外インフラプロジェクト向けファイナンスについて”**

**三菱東京UFJ銀行**

# はじめに

## ■ パッケージ型インフラ海外展開の概念

- ・ 従来型 : 単品機器輸出
- ・ パッケージ型 : 上流から川下まで一気通貫のシステムで、各パーツを担当する企業がコンソーシアムを組んで提供(「オールジャパン」での受注)

## ■ 民間金融機関としてファイナンス力、リスクテイク力の強化に注力

## ■ 民間では取れないリスクの存在

## ■ ファイナンス分野における官民協働

# 1. 海外インフラビジネスの概況

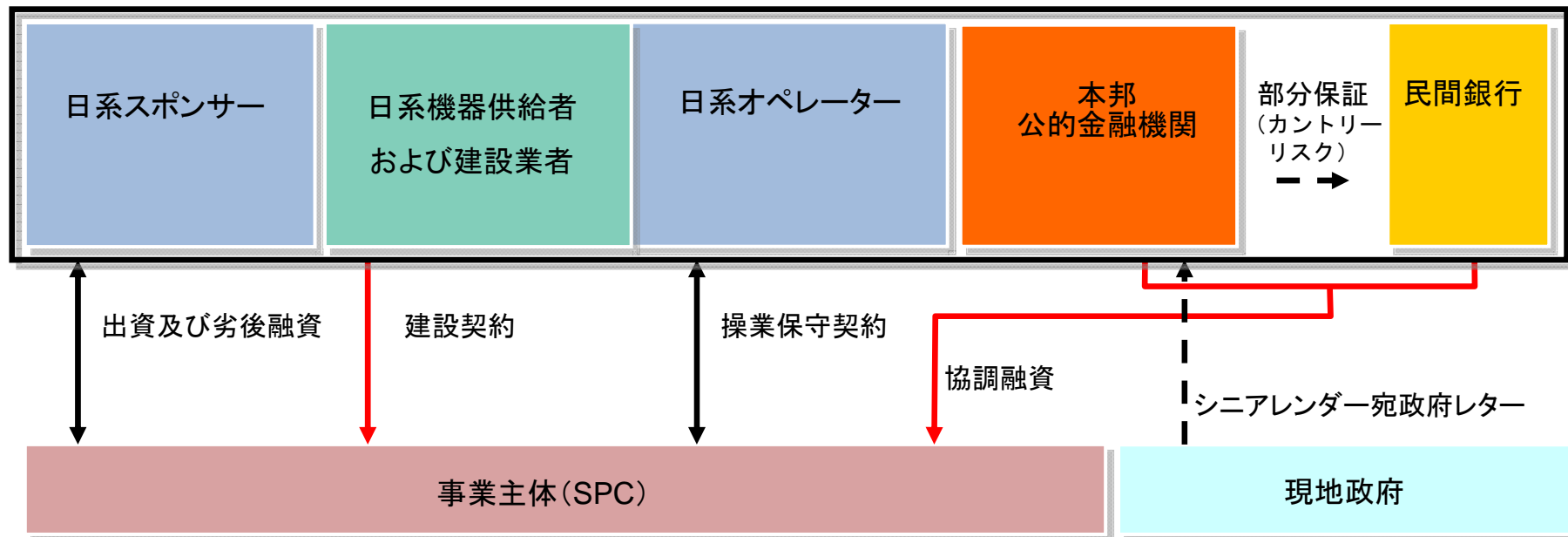
- 世界の膨大なインフラ開発需要
  - ✓世界全体：約3,700兆円（2010～2030年、出所：OECD）
  - ✓アジア域内：約800兆円（2010年～2020年、出所：ADB）
- 新興国、先進国双方において広がる需要
  - ✓新興国： 内需拡大、経済発展に伴うインフラ需要の拡大
  - ✓先進国： 金融危機以降の景気対策、政策シフト（環境課題への対応等）
- プロジェクト規模の巨大化（環境関連・原子力など）
- 新興国の積極的な受注攻勢

## 2. ファイナンス事例 (アジアにおける石炭火力発電案件)

### 【プロジェクト概要】

- ✓発電出力 : 約800MW
- ✓総事業費 : 約1,400億円 (うち協調融資総額:約1,100億円)
- ✓期間 : 18年

■スポンサー、建設業者、及びオペレーターとして本邦企業が参画、ファイナンスについては、JBIC及び民間銀行が協調融資により組成。「オールジャパン」として海外電力インフラ事案に取り組んだ事例となった。



## 2. ファイナンス事例 (アジアにおける石炭火力発電案件)

- 官民連携により、競争力あるファイナンスを提供し、プロジェクト成約の鍵となった。

	民間金融	公的金融	
財務アドバイザー (スポンサー側)	◎		→ スポンサーとのリレーションによる 初期的段階からのアプローチ
プロジェクト分析	◎	◎	
ストラクチャー構築	◎	◎	→ 民間による多様な金融 ツールの提供
政府間交渉 カントリーリスク補完		◎	→ 民間金融のリスク補完 (超長期、金利低減)
環境レビュー・審査	○	◎	
資金供与	◎	◎	→ 大型プロジェクトへの 対応

### 3. 今後の成長分野への取り組み ～検討事項～

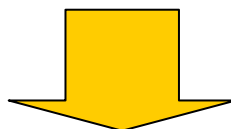
#### 成長分野

- オールジャパンとして競争力強化が求められる成長分野(環境関連・原子力など)においては、従来の案件以上に、民間金融にとって以下3つの点が検討事項となる。

巨額な融資量  
(プロジェクト規模大型化)

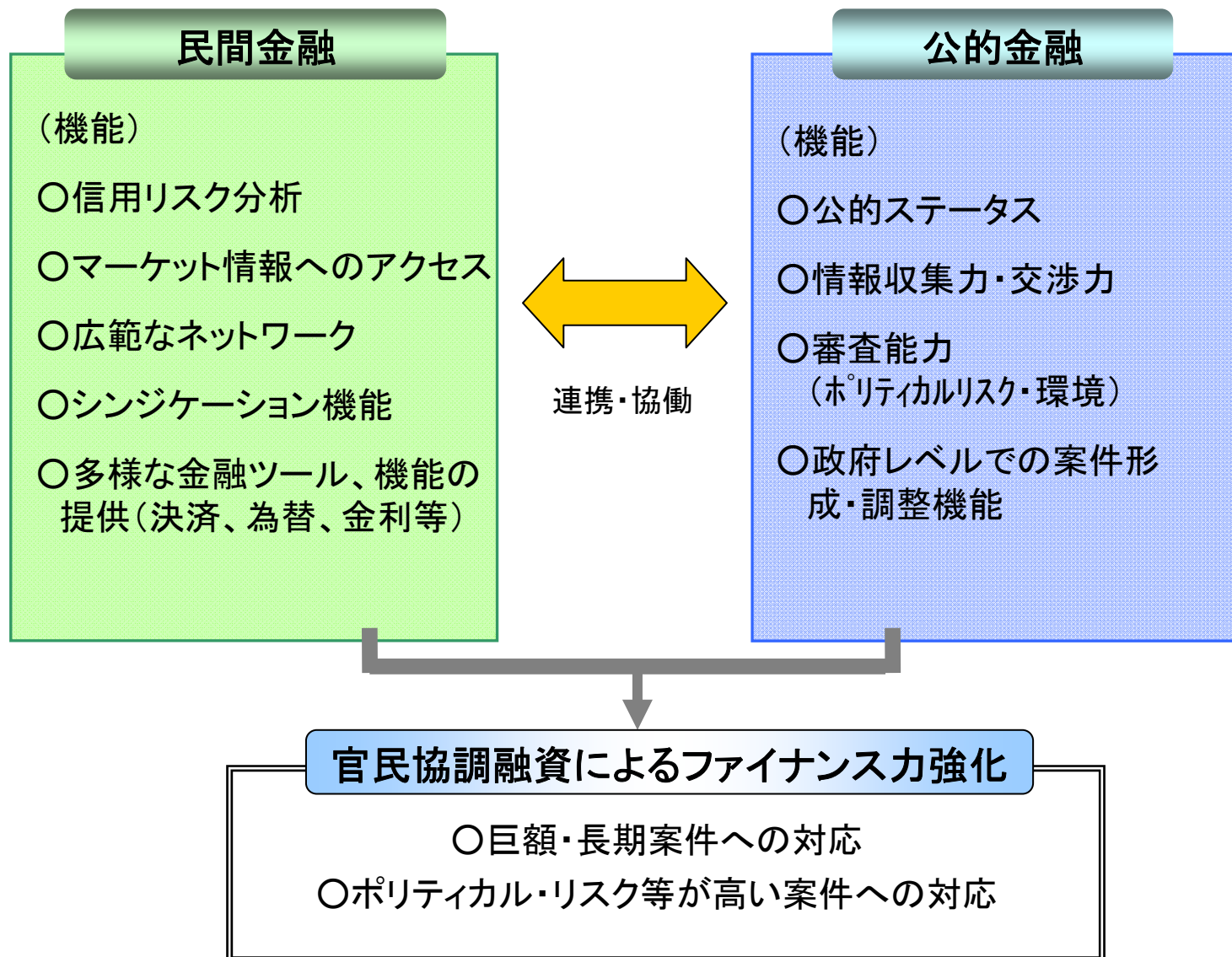
厳しい融資条件  
(金利、期間等)

リスク多様化  
(ポリティカルリスク等)



- 斯かる事項に対しては、必要に応じ、公的金融による補完が重要。
  - ✓ 直接融資、保証供与
  - ✓ 市中優先償還、リスク補完等による金利低減
  - ✓ 相手国政府に対する交渉力・抑止力

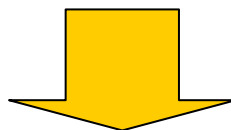
### 3. 今後の成長分野への取り組み ～官民連携強化～



## 4. 我が国の持続的成長

- 旺盛な海外インフラ需要を我が国の成長に繋げるべく、民間・市場のみでは対応困難な分野に対して、公的金融の機能が民間資金の呼び水となる事が重要。
- 民間の豊富な資金を動員する事で、持続的且つ安定的な成長分野でのファイナンスが実現できる。

官民一体となったオールジャパン  
によるファイナンス



我が国の持続的成長